

包装への取り組み

包装材使用量の削減や、再生資源利用などの改善に取り組んでいます。

包装から物流までの流れを総合的に見直し、環境負荷の低減を推進しています。

包装材における環境への取り組み

包装の構成・形態及び製品強度の見直しを図り、中装箱の廃止、個装箱と外装箱の小型・軽量化による包装使用材と廃棄量の削減に努めています。また、包装材は積極的に再生紙、再生樹脂を使用しています。

包装材総使用量の削減

2003年度末までに包装材の使用総量を2000年度比20%削減する。

(使用包装材:プラスチック、発泡スチロール、紙、ダンボールの排出量合計)

ダンボール使用量の削減

- 個装箱を小ロットごとにまとめて収納していた中装箱を廃止し、直接外装箱へ収納する。

- 外装箱の材質を見直し、極力薄型化を図る。

目標:2003年度末までに20%削減(2000年度比)

発泡スチロール使用量の削減

発泡スチロールから紙系包装材に切り替える。2002年度は21%を達成しています。

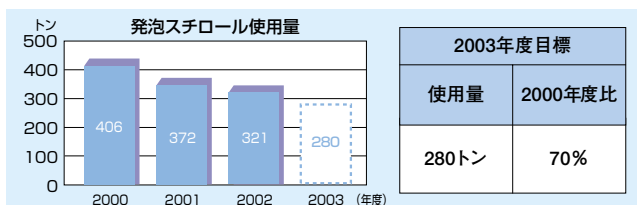
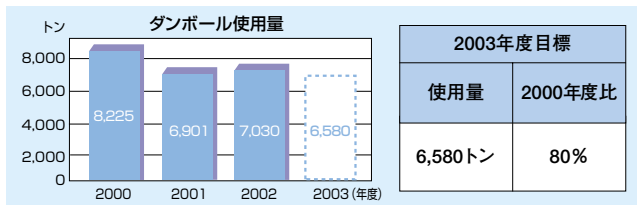
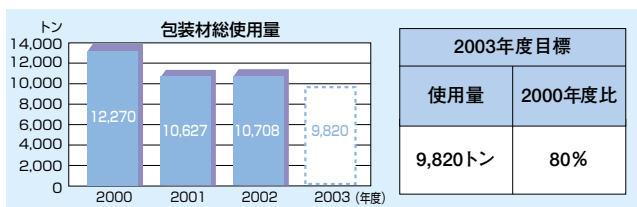
目標:2003年度末までに30%削減(2000年度比)



液晶一体型ビジネスPC積層ダンボール緩衝材



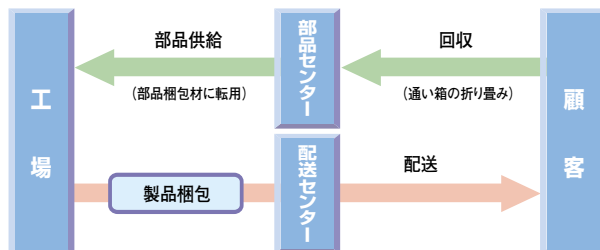
電子式キャッシュレジスターパルプモールド緩衝材



リターナブル包装への取り組み

包装材は最終的に廃棄物となるため、何度でも使用できるリターナブル化が効果的です。工場への部品供給から顧客への製品配送までの流れを分析し、大型製品を対象に繰り返し使える通い箱包装に取り組んでいます。2003年度末までに、採用に向けて推進します。

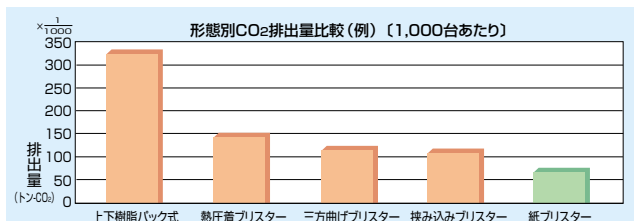
概念図



LCAによる包装材選定

包装のLCA(ライフサイクルアセスメント)による環境負荷(CO₂)データを比較し、環境にやさしい素材の選定と、総合的に環境負荷が少なくなるような新しい包装形態の開発に努めています。

電卓の包装では、紙ブリスターを開発しました。2003年度からはこの形態を他商品へ拡大していきます。



今後の取り組み

環境負荷の低減と循環型社会の構築を図るため、包装材の減量化(リデュース)と包装材の再利用(リユース)の視点で包装設計に取り組みます。

減量化では、包装の小型・軽量化、部品点数の削減に努め、またLCAによる環境負荷(CO₂)を考慮し、環境にやさしい素材を包装材選択の基準に、包装設計に取り組んでいきます。包装材の再利用では、材料の手配から製品の販売に至るまでの流れを掌握し、特に大型商品を対象に効率的なリターナブルシステムの構築を図り、廃棄物ゼロを目指していきます。